

『お福の会』認知症を多職種横断的に語る会の開催

三重県認知症介護指導者 玉田 浩一

キーワード: 認知症に関する横断的議論、
同じ土俵でも議論

活動の概要(活動の主体:個人・法人・その他)

【活動目的】

認知症の人と関わる、あらゆる職種の方々と共に同じ土俵の上で、認知症を語り、議論し、視野を広げるとともに学べる場の創造を目的としている。

【活動内容】

定期的に(2~3か月毎に一回)、地元の居酒屋に集い、酒を酌み交わしながら毎回違ったテーマや話題に沿ってフランクに意見を交換する。会は全員でお福の会宣言を復唱し、認知症に関して横断的な立場として意見交換を宣誓した上で開始される。毎回、一つのテーマに添った議論を行えるよう、事前に参加者の中から話題提供者を選定し、発表してもらう。

活動のきっかけ、背景(指導者としてその他としての立場で)

元々は全国的な活動として12年前より東京にて開催をしていた「お福の会」を鈴鹿市に持ち込み、三重県を中心に東海三県を交えて活動を3年前より開始。東京のお福の会は、認知症当事者の会へと活動幅を広げている。この会の背景として、認知症をめぐる横断的ケアの実施において、医療と介護だけでなく、多職種連携に存在する壁をめぐって、現状の改善が必要と考えられる。細かな認知症の人の状態や心理について、現場でしか分からない点を共有することの大切さを認識してもらう必要があった。

活動の経過と成果

【活動の経過】

2008年1月に放送された NHK スペシャル「認知症 なぜ見過ごされるのか」に出演した和田行男氏を中心に医師、放送関係者、家族、行政担当者を世話人として多職種が集まり、認知症を議論し共有することを目的に東京都品川区大井町に集ったことから始まった。私自身も当初より、東京のお福の会に参加し、色々な職種の方々と共に認知症を議論し、多くのことを多くの視点で学んだ。東京のお福の会が、当事者の会へと発展していく中で、趣旨を同じくして。同一の名称の会を三重県で開催・運営していく承諾を得て、三重県でのお福の会の継承を行うこととなった。

三重県では、認知症専門医を中心に世話人として多職種の方々に居力して頂きながら、運営を続けている。当所3か月に一回の開催を継続してきたが、今回のコロナ感染症拡大により本年度は活動が自粛されているものの、今後はWEB を使い全国の仲間を交えて活動を広げていく予定。

【活動の成果】

本会の成果としては、数値的に表したものはないものの、この会の発足以降、地元の医師会からは「多職種連携交流会」が開催されるようになった。同じように居酒屋にて酒を酌み交わしながら、医師、薬剤を中心として介護を交えて交流する場として活動を始めている。また、時機を同じくして。施策としての認知症初期集中支援システムが立ち上がり、認知症に関わる人々が増加、お福の会に参加する者の多くがキャラバンメイトとなりサポーター養成にも尽力するようになった。三重県全体的には小さな変化ではあるが、医療との壁は低くなり、以前にも増して医師からの介護に対する情報提供依頼は増加している。

地元の一一般市民においても、認知症に対する意識は高まり、以前のように単に恐れる病ではなく、対応次第によっては変化できる認知症を理解できるようになってきている。

今後の展望

認知症当事者を交え、活動の幅を広げる。コロナ禍による活動に対する制限は逆に WEB による参加として、地域だけでなく全国の仲間への活動として活発化させていく